

実火災訓練教育を実施しました



室内火災発生時の濃煙熱気を体験できる「実火災体験型訓練施設」において、火災性状、注水効果及び個人装備に関する理解を深め、災害現場での受傷事故等を未然に回避できる隊員の育成を目的とした「実火災訓練教育」を実施しました。

[期 間] 第25回 令和7年12月18日（木）

第26回 令和7年12月19日（金）

第27回 令和7年12月23日（火）

第28回 令和7年12月24日（水） 各1日間

[会 場] 埼玉県消防学校

[到達目標] 火災現場における各級指揮者として、消防活動に困難を伴う災害現場において、安全管理に配慮しつつ、適切・効果的な消防戦術をできる。

[教育対象] 警防救助活動に従事する部隊の長又はこれに準ずる、45歳以下の健康状態が良好である者

[修了者] 24消防本部（局） 72名 平均年齢38歳

令和7年度消防職員特別教育

実火災訓練教育　日課表

【第1小隊】

時間	8:40	9:00～9:30	9:30～9:50	9:50～10:00	10:00～10:20	10:20～10:40	10:40～11:15	11:15～11:45	11:45～12:20	12:20～13:20	13:20～14:30	14:30～14:50	14:50～16:00	16:00～16:25	16:25～17:00
日課	点呼 休調管理	入校式 訓練説明	休憩 移動	体 操	進入退出 要領	体調管理	資機材設 定要領	実火災体験型訓練 (閉鎖型訓練)	資機材 整備 デブリー フィング	シャワー 昼休み	座 学 「火災時の安全管理」	休憩	VR体験	資器材整備	修了式
担当	担当教官				初任担当教官		初任・専科教官				担当教官		専科担当教官	担当教官	
実施場所	第4教場	屋内訓練場				実火災訓練施設	屋内訓練場	第4教場							

【第2小隊】

時間	8:40	9:00～9:30	9:30～9:40	9:40～10:50	10:50～11:10	11:10～12:20	12:20～13:20	13:20～13:40	13:40～14:00	14:00～14:20	14:20～14:55	14:55～15:25	15:25～16:00	16:00～16:25	16:25～17:00		
日課	点呼 休調管理	入校式 訓練説明	休憩	座 学 「火災時の安全管理」	休憩	VR体験		点呼 休調管理 体操	進入退出 要領	体調管理	資機材設 定要領	実火災体験型訓練 (閉鎖型訓練)	資機材 整備 デブリー フィング	シャワー 資機材整備	修了式		
担当	担当教官					専科担当教官									担当教官		
実施場所	第4教場				屋外訓練場	第4教場	屋内訓練場				実火災訓練施設	屋内訓練場	専科棟	第4教場			

<p>火災性状VR体験</p>	<p>進入前準備訓練</p>
<p>完全着装確認状況</p>	<p>火災性状確認訓練</p>

修了しての感想

実火災訓練教育を修了して、感じたことは、消防士として現場経験21年目になりますが、火災時における建物への屋内進入活動を行った経験は、数知れずの経験を積んだとは到底言い難く、火災発生件数も減少しているため、なかなか現場経験を積むことは難しくなってきているのが現状であります。そう言った中で、本訓練のような座学、VR機及びコンテナを使用した閉鎖型訓練等を実施することで、火災性状、注水効果及び個人装備の重要性等、数多くの知識、経験を得ることができました。



また、小隊長としての現場対応能力としても、隊員に対する受傷事故等を未然に回避することができる知識も合わせて学ぶことができました。また、近年、耐火造建物と同様に木造、防火造でも高気密の建物が急増していることから、ワンルームマンションなど、高気密、小区画火災の熱環境下で活動することも考慮し、危険状況の把握能力向上とフラッシュオーバーの予防策を知識として持ち、自己そして同僚を守る行動を習得するため、今後も訓練を実施していく必要があると改めて実感しました。今回の研修を通じて、それらのイメージを膨らませ、日々の訓練に生かしていきたいと感じました。

後輩へのメッセージ

ここ近年では、火災発生件数も減少しているため、なかなか現場経験を積むことは難しくなってきているのが現状であります。机上でのフラッシュオーバーやバックドロフト等を学ぶことしかできないため、本訓練を通じて火災性状、注水効果及び個人装備に関する理解を深めることができるために非常に有益な訓練であると言えます。また、隊員もしくは小隊長のどちらの立場であっても、熱環境下における危険状況の把握能力の向上とフラッシュオーバーの予防策等を知識として得ることができるために、自己の安全管理能力向上と同僚を守る行動力を習得することができると思います。火災性状を知ることで、自隊訓練にも生かすことができ、また、隊員育成にも繋がると思うので、非常に良い経験ができる研修だと感じました。所属は違えども、災害現場で火災と戦う精鋭部隊として、1人でも受傷する消防職員が減ることを願います。

修了しての感想

実火災に類似する状況を作り、目で実際に見ることと、熱を体感することで、火災性状や注水における注意事項を改めて認識することができ、有意義な研修となりました。

所属にこの研修で学んだことを持ち帰り、所属職員に広く伝えていく所存です。



後輩へのメッセージ

消防職員でいる限り火災に対する知識は必須です。現在の職種にこだわらず、是非参加していただきたい教育です。

修了しての感想

実火災訓練教育では、火災の進行による炎や煙の動きを教官による解説を聞きながら、リアルタイムで観察することができ、放水による環境の変化も実際に体験できる訓練でした。閉鎖型訓練では、コンテナ内において火災の初期段階から燃焼過程を確認することができ、室内の温度変化も直接感じることができました。また、熱環境下での適切な防火装備着装の重要性を改めて認識し、重ね着による生地間の空気層が大切だということも実感しました。座学では、安全管理の3要素（意識・知識・技術）を再確認することができ、現場活動での自己の行動を見直す良いきっかけとなりました。VR体験では、過去の事例をリアルな映像で体験しました。火災現場での危険を共有する手段として、今後も様々な活用が期待できると感じました。

最後に、本訓練教育は多くの学校教官のご協力により、徹底した安全管理のもと行われています。携わってくださった教官方に感謝するとともに、今回学び経験したことを今後の現場活動や後輩指導に活かしていきたいと思います。



後輩へのメッセージ

本訓練教育では、火災性状変化、火災現場に近い熱・煙・注水による熱気環境の変化、注水による視界の変化等、短い時間の中で安全に多くのことを学べる訓練です。リラックスした状態で火災現場の映像を見るのとは違い、実際に防火衣を着て限られた視界の中で、あらゆるストレスを受けながら炎や煙の変化を観察し、温度変化も直接感じながら貴重な体験ができます。ぜひ一度、体験してみてください！そして、自分の身はもちろんですが、仲間の安全も守ることができる消防士になれるようお互い頑張りましょう。

修了しての感想

私は火災現場の経験が少ないため動画や写真でしか火災性状を見たことがなく現場の安全管理について知識と経験不足を感じていました。今回の実火災訓練教育では、火災現場での安全管理及び火災性状の座学、屋内進入のVR体験、閉鎖型訓練を実施しました。火災性状については、閉鎖型訓練で実際に中性帯やロールオーバーなどの過程を見ることができ、注水によりサーマル・レイヤリングを崩し高温化するのを実際に体感する貴重な体験をすることができました。安全管理については、防火衣着装は空気層の確保が重要であり今まで着装方法では熱傷危険があったと感じることができました。今回訓練で得た知識と経験を現場活動に活かし火災活動での受傷事案を起こさないよう所属で指導助言していきたいと考えています。



後輩へのメッセージ

実火災訓練教育は1日ですが、多くの事を学び体験できる体験型訓練だと感じました。特にコンテナを用いた閉鎖的訓練では最近の高気密住宅を想定したもので、中性帯やフラッシュオーバーの前兆であるロールオーバーを実際に見ることができます。また、実際に炎と煙、輻射熱を感じることで防火衣の性能と着装方法の重要性を体験できます。さらに身体にかかるストレスを感じることができました。動画や写真で見るよりも実際に体験する火災性状は全く違うもので危険予知に大きな力になると思います。火災活動での消防職員の受傷者は20歳代と30歳代が全体の7割をしめています。この貴重な人材を受傷させないよう消防職員としての必要な知識と経験を学ぶことができるため多くの方に体験して欲しいと思いました。